

2020年度は、管理栄養士3名、事務員1名、委託スタッフ13名とあわせて17名であった。安定した食事提供の継続と栄養管理の充実のため、全病棟の多職種カンファレンスの実施と取り扱い栄養剤の見直しを行った。また、働きやすい環境作りを継続して行い、部署内のチームワークはもちろんのこと業務効率化のため、体制を整備した。

1. 給食管理業務

安定した食事提供のため、献立の見直しを継続的に行った。献立担当者と随時話し合える体制と嗜好調査意見や行事食アンケートをもとに、可能な限り献立へ反映し、患者満足の上昇に努めた。現場の業務効率についても随時協議しながら、作業工程の見直しを行った

2. 臨床業務

定期的なベッドサイド訪問の実施、食欲低下など問題のある患者への早期介入に継続して取り組んだ。多職種と連携し、食事形態や食事量の調整を行い、患者に少しでも食事を食べてもらえるよう努めた。介入内容については、提供・摂取栄養量などもあわせてカルテに記録し、情報共有を行った。更に2020年度から、回復期病棟のみで実施していた多職種カンファレンスを、全病棟で行った。また、回復期リハビリテーション総合実施計画書への参画、通所患者の栄養管理の積極的介入を行った。外来栄養指導の継続介入について整備し、実施していった。

診療報酬改定により、転院先等への栄養情報提供書の整備を行ったが、実際に算定できた方は少ない状況であった。今後、算定の有無に関係なく、情報提供が必要な患者については、可能な限り実施していく。また、退院後の外来栄養指導の継続介入についても、しっかり行っていく。

3. その他

働きやすい環境整備として、有給休暇の計画的取得と業務のスリム化は継続的に実施した。定期的にスタッフ間で情報共有し、問題点の抽出・方法の変更について試行錯誤しながら、残業時間を短縮することができた。今後も、アイデアを出し合いながら、お互いが働きやすい環境を整備していきたい。

2021年度は、取り扱い栄養補助食品の変更と個別対応の充実、セレクト食を廃止し、患者層に合った食事サービスの検

討を行っていく。更なる安定した業務運営を目指し、働き方の見直しについても継続して行っていく。

